

プログラムの
ねらい

- 学校生活の充実・向上に向けて、創意工夫を凝らした自発的・自治的な取組を行い、児童生徒の主体性を高める。
- 異年齢集団活動を通して、望ましい人間関係を築き、よりよい学校づくりに向けて、役割を分担し合い、協力して活動する態度を育む。

児童生徒の発達を
「ささえる」
ポイント

- ①-2 児童生徒の意見・要望・疑問に耳を傾ける。
- ①-7 異年齢交流を取り入れる。
- ①-8 活動を校外に発信する。

「各種の委員会」について

「各種の委員会」とは

- ①生活の規律に関する委員会、図書に関する委員会、給食に関する委員会等、様々な委員会が、学校の実情に合わせて設けられている。
- ②児童会・生徒会活動における実践活動の推進の役割を担うものであり、学校生活の充実・向上を目指すために、児童生徒の立場から自発的・自治的に行われる活動である。

「各種の委員会」の課題

- ①児童生徒の実態や学校の状況に関わらず、前年度と同じ活動内容を繰り返す。
 - ②教員が「やらせたい」「やってもらいたい」活動が多く、児童生徒の発意と発想が生かされた活動が設定されていない。
 - ③異年齢交流のよさが生かされていない。
- ※上級生は、自分の役割を自覚して一所懸命行動したことが、下級生の手本になった、役に立ったと感じ取れたときに成長する。
- ※下級生は、上級生の手本に感謝し、自分もこのような上級生になりたいとあこがれの気持ちを持つことが成長につながる。

自発的・自治的な委員会活動にするために

例1【全校の声を生かして、活動内容の検討を年度末の委員会活動で行う】

- ①Google Forms等を使い、全校の児童生徒に各委員会で実施してほしいことをアンケート調査する（小学校は、4年生以上など発達段階に考慮する）。
- ②担当教員と委員長や副委員長で、意見の集約を実施する。
- ③年度末の委員会で、来年度の活動内容を検討する。
 - ・当番として行う活動（石けんの補充、図書の出し入れなど）
 - ・日常的に行う活動（あいさつ運動、募金の呼び掛けなど）
 - ・新年度から挑戦する活動（〇〇週間の企画・実施）

例2【異年齢交流を意識した活動を組み込む】

- ①意図的に異年齢交流を組み込むグルーピングを行う。
【中学校の例】
（旧） 月～金まで、「1年生→2年生→3年生」のローテーションで活動する。
（新） 月→各学年の1組 火→各学年の2組 水→各学年の3組 など
- ②上級生がリーダーシップを発揮して活動に取り組めるよう、担当教員と打合せを行っておく。
- ③下級生が上級生に、活動の成果や感想を伝える場面を設けることで、両者の成長につなげる。

例3【イベントで学校生活を盛り上げる】

- ①委員会の特色を生かしたイベントを企画する。児童集会・生徒集会の一部分に委員会企画のコーナーを設定し、担当する委員会を変えながら、児童生徒主体の集会を実施する。
【例】
 - ・放送委員会→早口言葉大会
 - ・生活委員会→挨拶や服装など基本的生活習慣に関するPR動画の撮影、試写会の実施
 - ・保健委員会→保健に関する〇×クイズ
 - ・図書委員会→おすすめの本紹介、読み聞かせの会

例4【活動を校外に発信する】

- ①活動を校内にとどめずに、校外でも行ったり、活動内容を発信したりする場面を設定する。
【例】
 - ・募金活動を街頭で行う。
 - ・学校広報誌と連携し、活動を紹介する。
 - ・学校ホームページや学校だよりなどを活用し、活動を紹介する。
 - ・放送委員会が地元のラジオ局と連携して放送を行う。